

活動名	団体名	創作・風鎮神楽会
	地域	山口県防府市
	代表者	代表 古谷 忠隆
	支援金額	30万円

活動概要

防府市西浦の開作（開作東、開作西）は、1824年、毛利藩・第10代藩主、毛利斉熙公により築き立てられた約150町歩におよぶ広大な開作である。同年2月24日の潮留め以来、先人たちは荒れた土地を日夜耕し、幾多の困難を乗り越え、今日の米作1500俵の収穫を得るほどの豊かな土地（田畑）を築き上げてきた。その過程で多くの自然災害とも闘ってきた。斉熙公は、新開作の築き立てに当たり萩の金谷天満宮で連歌会を開き「開けしは神の功績ぞ国の春」と詠われ、やがて明治維新へと変化し近代日本の夜明けとなった。創作神楽「斉熙公と国の春」の創作に取り組みながら、困難にも屈せず力強く生きることの大切さを地域の皆さんに伝え、特に青少年の健全育成に努めた。昨年5月16日（土）には、土曜授業として西浦小学校全生徒（130名）の前で風鎮神楽を演じた。引き続き、同年8月には世界ジャンボリー大会の地方大会が、西浦小学校で開催され、西浦小学校4・5・6年生徒と世界から来られた青少年スカウト達に、創作中の神楽の一部（ふるさと西浦と神楽の説明は英語）を披露しおもてなしを行った。

◆実施時期
2015年4月～2016年3月

◆参加人数
世界ジャンボリー大会・西浦小学校（体育館）外国人50名、西浦小生徒、4,5,6年生73人、父兄30人、西浦音頭会員25人、JA徳地防府西浦支所、西浦まつり神楽会場、約300人
参加総人員：延べ約1,500名



5/16 西浦小学校土曜授業
古谷忠隆会員の話



7/7 神楽指導
8月世界ジャンボリー大会での開催に向けて



8/5 世界ジャンボリー地方大会



11/1 西浦まつり 世界的和太鼓の演奏

◆実施に伴う効果

青少年健全育成の取組みとして、西浦小学校児童・134人と父兄に与えた影響は大と考える。

-児童代表お礼の言葉より抜粋 6年 池本愛権

西浦の歴史や神楽についての紹介や和太鼓などを体験させていただきました。

普段太鼓をたたくことがないので、うれしかったです。これからも西浦の「風鎮神楽」を大切にしていきたいです。

◆苦労した点

- ・予算：神楽衣装（一式のみ購入）を計画どおり枚数を揃えることができなかった。
- ・指導者不足：神楽舞という伝統芸能の舞の創作に当たって、奏楽（太鼓、笛など）を含め舞を教えていただく指導者不足のため計画通り進まなかった。
- ・外部へのPR：マツダ財団支援事業として「のぼり」を作成、また口頭で出演時、PRに努めた。
- ・地域の理解：第一作「創作・風鎮神楽」を演じてきているため、地域の理解度はある程度あるが、第二作目「創作・斉熙公と国の春」に関しては、引き続き来年度以降に、完成を目指し、継続して地域への理解に努めていきたい。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・指導者不足の課題を克服：神楽を完成させるために、日本全国、外国においても神楽の指導をされている専門家に指導を受けることにした。元浜田市金城町の町長だった「安藤美文氏」に、2016/3/27 浜田市でお会いし、指導をお願いした。安藤氏は日本各地、ニューヨーク、アジアにおいても指導されている専門家である。「姫」「奏楽」「笛・太鼓」「大蛇」となんでも1人で、演じ指導される。しかも、ボランティアによる指導である。創作神楽の台本の制作および舞、太鼓・笛等の指導も安藤氏にお願いすることにした。
- ・発展の方向性：2016年4月から、さらに一貫性のある実施計画を作成し取り組んでいく。計画があれば進路が定まり、進み具合もわかる。障害にぶつかったときや新しい好機が訪れたときに計画を調整することが可能だ。衣装等についても、浜田市・「神楽ショップくわの木」の指導・支援をいただくことになった。1824年、斉熙公が築立された西浦新開作。あれから192年経過した150町歩の田畑は、今や少子高齢化で落日の憂き目にある。
- ・2015年4月からマツダ財団の支援でうぶ声を上げた創作神楽「斉熙公と国の春」は、会員共々同じ価値観と熱意をもつ仲間と取り組んでいけば、青少年健全育成のみならずふるさと創生としても広く脚光を浴びることになると信じる。・・・夢実現！

◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団の皆様へ感謝： 私たちの住んでいる開作地区から、マツダ西浦工場の生産の息吹が毎日聞こえます。Be a Driver 毎日力をいただいています。これからも会員一同、創作神楽を通して青少年健全育成、ふるさと創生にも力を注いでいきます。

マツダ西浦工場へ感謝： 総務課の多くの皆様にご指導、ご支援いただきました。

山口県健康福祉部子ども子育て応援局・子ども家庭課青少年家庭福祉班： 情報がなく、どのように取り組めばよいか、困っていた時に、マツダ西浦工場での贈呈式の際、主査・嶋田美和子さんが、わざわざ関係資料ご持参くださり取り組む勇気が湧きました。

広島県民文化センターの館長さんに感謝： 西川文人館長さんには、広島神楽・定期公演資料、神楽開催告知ポスター（日本語・英語版）公式ガイドブック・日程表（和文・英文）神楽スペシャルチラシ、外国人観光客用フリーペーパー（Get Hiroshima）等、ご送付いただきました。英文資料は、世界ジャンボリー大会・西浦小学校での地方大会に、活用させていただきました。

神楽の指導者にめぐりあえたこと： 日本の伝統芸能を習得するためには良き指導者が必要です。1年間探しておりましたが、活動の終盤になり、幸いにも、良き指導者「安藤美文氏」に出会うことができました。めぐり合いを大切に次年度につなげます。

西浦小学校へ感謝： 校長・林秀和先生には、ご多忙にもかかわらず、何回も訪問し、打ち合わせ時、いつもこころよくアドバイスいただき感謝申し上げます。また、教頭・加藤衛先生はじめ実務を担当された河野先生や多くの教職員の方々にもご支援いただきました。生徒会長の関谷さん、ご協力ありがとうございました。